

編集部 TEL 521-7025
info@jip.jp

清里区櫛池の取り組みを紹介

「集落再生と日本の未来」出版

橋爪法一さんが執筆

上越市清里区櫛池地区の集落間連携など全国各地の「限界集落」再生の取り組みと今後の可能性を探った「集落再生と日本の未来」を持続できる地域づくり

一さんが一章を執筆し、清里区櫛池地区農業振興会の取り組みを関係者へのインタビューを交えて紹介している。

本の未来 持続できる地域づくり(中嶋信編著)部の中嶋信教授が編著者となり、過疎の進む全国各地の集落の取り組み事例を通して今後を展望し

ている。

橋爪さんが書いたのは第1章「集落間連携で中山間地農業を守る」。地区が一体となって農地、農家、集落を守った櫛池地区農業振興会の取り組みとそれを支援した上越市農業振興課課長のインタビューを掲載している。

このほか、長野県阿智村、高知県四万十市、徳島県美浪町、京都府美山町などの取り組みが紹介されている。

橋爪さんは、2007

集落再生と日本の未来

持続できる地域づくり

中嶋 信 編著

「集落再生」は可能だ!

集落には二つの役割がある。一つは、道路や水路などの生産の共同管理。もう一つは、暮らしのネットワーク機能だ。そこに生きている「住民自治」の基盤を大切にしつつ、行政の支援や域外との連携などで補完されるならば、集落再生は可能だ。実践が示す「集落再生」の知恵がこの1冊に。

「集落再生と日本の未来」A5判171ページ。1890円

年に出版された「山村集落再生の可能性―山古志・小国法末・上越市の取り組みに学ぶ―」(岡田知弘・にいがた自治体研究所編)にも関わり、過疎が進む同区川谷集落での暮らしの様子が克明に描いたルポ「山里に生きる」を書いている。

第2弾となる今回の本について橋爪さんは「人間の暮らしの本」に大切に

なものがこういった集落話している。

には残っている。この本を通じていろいろな人に注目してもらい、みんな4の春陽館書店などに売っている。

話している。

A5判171ページ。

1890円。上越市本町

4の春陽館書店などに

売っている。